

酒田市 予算特集

新型コロナウイルス感染症の拡大は、私たちの社会生活や地域経済に大きな影響を与えました。

また、これまで当たり前だと思われてきた働き方や暮らし方が一変し、テレワーク、遠隔教育やキャッシュレス化など、デジタル技術の活用によって新たなライフスタイルを創造する流れを社会全体に生み出しました。

令和3年度予算は、ウィズコロナ・アフターコロナ時代における新たな一歩を踏み出すと共に、酒田市総合計画の目指すまちの姿「賑わいも暮らしやすさも共に創る公益のまち酒田」を実現するため、次の3点を重点に編成しました。

- 1 新たな日常への転換を見据えた経済・社会の再生
- 2 日本一女性が働きやすいまちの実現
- 3 市民に優しいデジタル変革の推進



浜田、若竹保育園を統合して開設される「みなと保育園」と、併設される「酒田子育て支援センター」
(令和3年4月オープン)



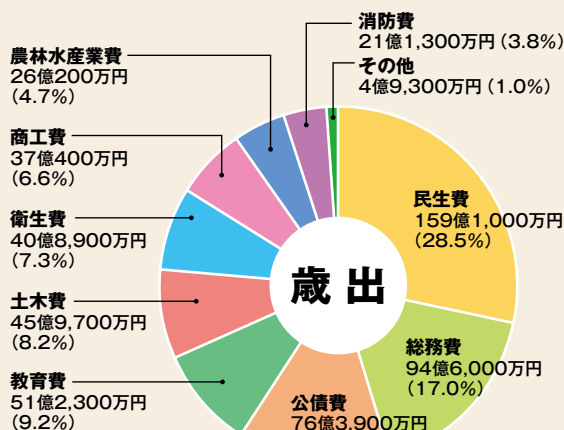
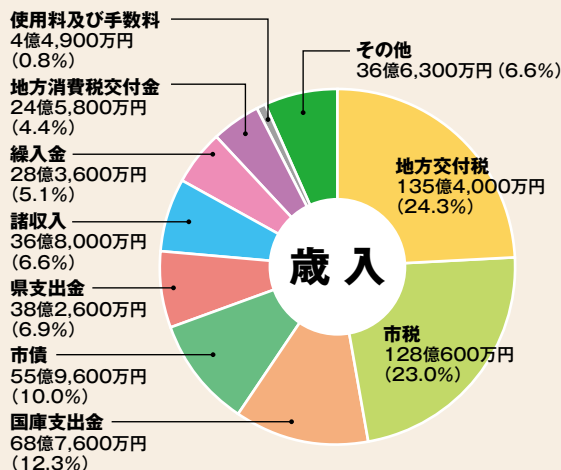
令和3年度 当初予算の概要 ~「賑わいも暮らしや

1 会計別の予算規模

●一般会計 総額557億3,000万円

(対前年度比△17億7,000万円／△3.1%)

一般会計とは、福祉、子育て支援、道路整備、教育など基礎的な行政サービスを行うための会計です。



※円グラフにおける歳入・歳出の内訳額は、百万円単位で表示しています。

●特別会計

特別会計とは、特定の事業を特定の収入で賄う会計です。収支を明確にするために、一般会計から切り離して経理しています。

会計	予算額	対前年度比
定期航路事業特別会計	3億 706万円	△10.4%
国民健康保険特別会計	101億8,302万円	△3.3%
後期高齢者医療事業特別会計	13億7,641万円	0.6%
介護保険特別会計	134億1,603万円	5.7%
風力発電事業特別会計	3億2,850万円	△77.4%
駐車場事業特別会計	2,403万円	△19.2%

※特別会計及び企業会計の予算額は、万円単位で表示しています。

●企業会計

企業会計とは、民間企業と同様に事業の収益によって運営している会計です。

会計	予算額	対前年度比
水道事業会計	収益的収入	27億6,121万円 △2.8%
	収益的支出	26億3,836万円 △1.3%
	資本的収入	1,653万円 △72.6%
	資本的支出	11億 365万円 △13.4%
下水道事業会計	収益的収入	48億4,027万円 △0.4%
	収益的支出	47億9,795万円 △0.4%
	資本的収入	5億2,373万円 △12.8%
	資本的支出	27億2,066万円 △3.5%

※令和3年3月11日現在
※金額は百万円単位で表示しています。

2 主な基金の状況

基金とは、特定の目的のために現金などの財産を運用するもので、家計でいうところの貯金にあたります。近年の厳しい財政状況を受けて、基金残高の総額は減少傾向にあります。令和3年度末の基金の残高見込み（一般会計の積立基金と運用基金）は次のとおりです。

●令和3年度末基金残高見込み 74億9,300万円 (対前年度比 △20億4,700万円)

財政調整基金 20億6,600万円 (対前年度比 △7億9,900万円)

突発的な災害などによる支出増や、経済の不況などによる収入減などに備えるための基金です。

市債管理基金 7億1,400万円 (対前年度比 △3億8,500万円)

建設事業などの借入金返済の際に、年度間の平準化などを行うための基金です。

さかた応援基金 3億4,600万円 (対前年度比 △2億300万円)

ふるさと納税による寄附金の一部を積み立て、魅力あるまちづくりを進めるための基金です。

すさも共に創る公益のまち酒田」を目指して～

3 主な歳入の状況（一般会計）

※主な項目を記載し、金額は百万円単位で表示しています。

市 税

128億600万円

(対前年度比△4.8%)

- ◆個人市民税 42億3,600万円 (△3.8%)
- ◆法人市民税 8億4,700万円 (△26.1%)
- ◆固定資産税 58億3,600万円 (△2.9%)
- ◆市たばこ税 6億2,400万円 (+2.5%)
- ◆都市計画税 8億1,200万円 (△2.9%)

地方交付税

135億4,000万円

(対前年度比△2.2%)

- ◆普通交付税 122億9,000万円 (△2.4%)
- ◆特別交付税 12億5,000万円 (0.0%)
国内どの地域においても、一定の行政サービスを提供できるよう、国から配分されるお金です。

その他

293億8,400万円

(対前年度比△2.7%)

- ◆国庫支出金 68億7,600万円 (△14.6%)
- ◆県支出金 38億2,600万円 (△8.2%)
- ◆寄附金 20億 400万円 (+53.4%)
- ◆市債 55億9,600万円 (△7.4%)

4 主な歳出の状況（一般会計）

※主な項目を性質別に記載し、金額は百万円単位で表示しています。

義務的経費

249億3,800万円

(対前年度比+2.1%)

- ◆人件費 77億4,500万円 (△0.9%)
- ◆扶助費 95億5,400万円 (+3.5%)
子育て支援や障がい者支援など福祉のための経費です。
- ◆公債費 76億3,900万円 (+3.4%)
過去の建設事業などに使った借入金を返済するための経費です。

投資的経費

51億2,400万円

(対前年度比△38.1%)

- ◆酒田コミュニケーションポート（仮称）整備事業 6億1,400万円
- ◆駅周辺整備事業 14億8,900万円
- ◆酒田商業高校跡地整備事業 5億9,700万円
- ◆消防庁舎及び総合防災センター整備事業 6億1,600万円

その他の経費

256億6,800万円

(対前年度比+3.5%)

- ◆物件費 69億2,400万円 (+6.3%)
委託料や光熱水費、消耗品費などの経費です。
- ◆補助費等 100億2,900万円 (+6.0%)
補助金・負担金のほか消防やごみ処理のための分賦金なども含まれます。
- ◆繰出金 45億7,500万円 (+2.7%)
特別会計に対する支出などです。

5 市債の残高（一般会計）

市債とは、過去に建設事業などを行うために借り入れたお金です。

家計でいうところのローン残高にあたる市債の残高は次のとおりです。

- 令和3年度末市債残高見込み **591億4,500万円** (対前年度比 △17億3,600万円)

6 行財政運営の方針

●効率的な行財政運営による市民サービスの維持・向上

酒田市デジタル変革戦略のもと、令和3年度から3年間を重点期間とし、デジタル技術導入への投資を集中して行います。

マイナンバーカードは、休日申請の受付や、企業・団体への出張による申請受付を行い、普及に努めます。

●持続可能な財政基盤の確立

社会保障制度の充実に伴う費用の増加などにより、本市の財政は厳しい状況にあります。未利用財産などの売却やふるさと納税のさらなる獲得、風力発電事業の売電収益の活用、公の施設の使用料減免の適正運用など、財源不足の解消に向けて着実に取り組んでいきます。

1 未来を担う人材が豊富な酒田 ~ひとづくり・協働~

1 協働の芽吹きとなる市民参加があふれるまち

●市民協働・公益活動推進事業／1,248万円

ボラポートさかた（ボランティア・公益活動センター）の運営と補助制度を通じて、市民による自発的な公益活動を推進します。令和3年度は、NPOや公益的な活動を行っている団体と行政が連携して、新たな市民協働事業の企画に取り組みます。

●広報広聴活動推進事業／8,134万円

広報紙、市ホームページを中心に、令和2年12月から運用を開始したラインをはじめ、ツイッター、インスタグラム、フェイスブックなどのSNSを積極的に活用し、本市の行政情報を的確にきめ細かく提供します。



令和2年度の市民協働のモデル事業で酒田南高校・絵本の会が制作した絵本

2 大学とともにつくる「ひと」と「まち」

●大学まちづくり推進事業／1,210万円

「大人の学び場」としてリカレント教育※機能の充実を図るため、東北公益文科大学で実施する履習証明プログラムや、山形県立産業技術短期大学校庄内校で実施する社会人向け公開講座などの受講者を対象に受講費の支援を行います。

※リカレント教育：社会人になってからも、教育機関に戻り、職業上必要な知識・技術を習得し、また社会へ出ていくことを生涯続けることができる教育システム。

●東北公益文科大学定住促進事業／634万円

東北公益文科大学卒業生の本市定住を促進するため、本市に居住し就業する卒業生を対象に奨学金の返還を支援します。



全国的にも高い評価を受け、入学者数も順調に推移している東北公益文科大学

3 公益の心を持ち明日をひらく子どもたちを育むまち

●GIGAスクール推進事業／3,678万円

令和2年度に整備した無線ネットワークの環境や、児童生徒1人に1台配置するGIGAスクール用端末を活用して、子どもたちの主体的・対話的な学びを支援するなど、学力向上を確かなものとしします。

●小中一貫教育推進事業／213万円

これまで実施してきた小中連携の取り組みをより効果的なものにするため、各中学校区の取り組みを共有し、効果の検証を図るとともに、実態に即した「義務教育9年間のつながりを大切に教育」の実践を図ります。

●東北公益文科大学連携推進事業／84万円

東北公益文科大学と連携し、小学生を対象とした夏休み宿題お手伝い教室、中学生を対象とした放課後学習支援や英語講座などを実施することで小中学生と大学生の双方に有益な学びの機会を作ります。

●学校ICT環境整備事業／609万円

令和2年度に整備した校務支援システムに新たな機能を追加し、学校業務の効率化を図るとともに教員の働き方改革を推進します。



児童生徒一人ひとりに配置されるGIGAスクール用端末



東北公益文科大学の学生による中学生への学習支援

●学力向上対策事業／1,513万円

児童生徒の資質・能力を把握し、学習指導要領に対応した授業の改善や小中9年間を見通した学びの推進を通して、「生きる力」を支える「確かな学力」の育成を目指します。

●教育支援員配置事業／8,422万円

特別な支援を必要とする児童生徒のために、50名の教育支援員を各小・中学校に配置します。教育支援員の資質の向上を図るとともに、一人ひとりのニーズに応じた支援体制の充実に努めます。

4 学びあい、地域とつながる人を育むまち

●文化芸術推進事業／2,444万円

山形交響楽団による楽器クリニック及び指揮者工藤俊幸氏による合唱指導、コンテンポラリーダンスの魅力を発信するためのワークショップや公演、アートスタート事業、SAKATAアートマルシェなどを実施し、質の高い公演の鑑賞やアート体験できる機会を提供するなど、誰もが文化芸術に触れることができるよう参加機会を充実します。



「SAKATAアートマルシェ」などを通じ、広く文化芸術に触れる場を提供します

●スクールプログラム実施事業／44万円

令和3年4月1日発足の公益財団法人さかた文化財団と連携し、小中学校の授業の一部を土門拳記念館や市美術館で行います。本市ゆかりの功労者の活動を知り、本物の芸術に触れることで深い学びや多様性に富んだものの見方を養い、郷土愛の醸成を目指します。



国の史跡指定を受け、保存活用に向けた検討が進む山居倉庫

●山居倉庫保存活用計画策定事業／408万円

本市の歴史的景観を象徴する山居倉庫が、国の史跡指定を受けました。庄内の米づくり、近現代の米穀流通の歴史を今に伝える山居倉庫を次の世代に確実に継承していくため、令和4年度までの2か年で山居倉庫保存活用計画の策定に取り組みます。



石置杉皮葺（いしおきすぎかわぶき）屋根の大規模修繕等を行う旧鑑屋

●史跡旧鑑屋修復事業／6,989万円

国指定史跡「旧鑑屋」の修復工事（屋根の大規模修繕及び耐震補強工事）を実施します。

●スポーツ行事開催事業／1,685万円

子どもから大人まで幅広い年代の市民が参加する市民体育祭及び湊酒田つや姫ハーフマラソン大会については、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた新しい生活様式に配慮して実施します。

●国体記念体育館改修事業／7,209万円

建築から約30年が経過する国体記念体育館について、令和元年度に実施した調査結果に基づく大規模改修工事のための設計を行います。



競技スポーツ・生涯スポーツの拠点施設として位置付けられている国体記念体育館

●体育施設耐震改修事業／1,626万円

八幡体育館について、耐震診断の結果に基づく耐震改修工事のための設計を行います。

1 地域経済を牽引する商工業が元気なまち

●新型コロナウイルス感染症関連経済対策事業／2億2,113万円

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、経済的な影響を受けた中小企業者が金融機関から受けた運転資金の融資に対し、利子補給及び信用保証料補給を行います。

●産業振興まちづくり推進事業／1億906万円

産業振興まちづくりセンター（サンロク）において、地元企業や農林水産事業者等のニーズとシーズをつなぐ（マッチング）ことにより様々なプロジェクトを組んで、市内事業者の売上向上に向けてサポートします。また、女性活躍推進として、市内女性のITスキルアップ講座及び各種就業支援、スキルを持った女性による事業者のITサポート、事業承継及び創業支援を実施します。

●未来投資促進事業／8,220万円

地域未来投資促進法に基づく企業支援型サービス分野の地域経済牽引事業者の事業の拡大、雇用の促進等の取り組みを支援します。また、市内企業がデジタルツールを活用した新たなビジネスモデルの構築、経営効率化または生産性向上のためにDX（デジタル変革）を推進する取り組みに対して支援します。

●元気な小規模事業者持続化特別助成事業／630万円

国の小規模事業者持続化補助金の採択を受けた小規模事業者を対象に、本市独自の追加支援「元気な小規模事業者持続化特別助成金」により、販路開拓等を行う取り組みを支援します。

●設備投資促進助成事業／2億6,906万円

工場等を新設・拡充・移設した企業に対し助成金を交付することにより、地域経済を牽引していく企業を育成し、産業の振興を図ります。



開設から4年目を迎える産業振興まちづくりセンター「サンロク」（中町庁舎1階）



多彩な分野をテーマに開催されるサンロクセミナー

2 「港」の物流機能により産業競争力が高いまち

●港湾整備事業／5,626万円

酒田港北港地区の防波堤延長などの国直轄の事業や、山形県による本港地区の港湾施設改修などの事業に要する経費の一部を負担します。

●重要港湾酒田港活性化推進事業／1,948万円

酒田港の更なる活性化を図るため、取扱貨物量拡大に向けたポートセールス事業やリサイクルポート推進事業に国・県などと協力して取り組みます。



令和2年8月に供用開始した酒田港国際ターミナル
（写真提供 山形県港湾事務所）

3 地元でいきいきと働くことができるまち

●女性活躍推進事業 718万円

「日本一女性が働きやすいまち宣言に賛同するリーダーの会」の会員増、えるほし認定企業を増やすための奨励金制度の創設など、「日本一女性が働きやすいまち」の実現に向け、職場だけでなく家庭や地域における意識改革も含めた取り組みを進めます。

●人材確保支援事業／1,600万円

市内企業が専門性の高い人材を確保できるよう、県外人材の採用に要する経費を支援し、本市へのUIJターン就職を促進します。



日本一女性が働きやすいまち
宣言に賛同するリーダーの会

女性が働きやすい職場づくりに取り組む事業主によるリーダーの会員増を目指して、意識啓発の取り組みを行います

●若者地元就職魅力発信事業／114万円

「酒田で働く良さ」「酒田で暮らす良さ」を紹介する動画を制作し、進路を検討する若い世代に対してSNSなどで発信します。

4 夢があり、儲かる農業で豊かなまち

●酒田型土づくり特別対策事業／900万円

米の需要減少による米価下落に打ち勝つために、米作りの基本となる土づくりを支援し、酒田産米のブランド力向上を図ります。

●スマート農業推進事業／923万円

土壌分析やドローンなどを活用した水田の健康診断を行い、診断結果に基づく処方箋を作成し、科学的データを取り入れた農業を推進します。また、各農業者の特性に応じたカリキュラムを作成し、農業を基礎から学べる「もっけ田農学校」を開設するほか、農業用ドローンや無人ヘリコプターのオペレーター養成を支援します。

●農業次世代人材投資事業／1,964万円

新規就農者に対し、不安定となりがちな就農開始直後の農業経営を支援するための資金を交付し、新規就農者の定着を図ります。

●豚熱ワクチン接種緊急支援事業／403万円

令和2年末の発生を受け、豚熱の感染防止対策として、豚熱ワクチン接種費用への緊急支援を行います。

●畜産経営競争力強化支援事業／7,750万円

意欲ある畜産経営者が行う経営規模拡大や効率化の取り組みを支援し、農業所得の増加を目指します。



データに基づく農業の手法を学ぶスマート農業実践研修会



農業用ドローン等のオペレーター養成を支援します

5 100年続く森林（もり）を造り、活かすまち

●森林経営管理推進事業／5,239万円

森林環境譲与税を活用し、管理が適切に行われていない森林について、所有者と民間事業者をつなぐための意向調査等を実施します。

●森林病虫害等対策事業／4,302万円

森林を健全に育成するため、海岸林等において松枯れを引き起こしている森林病虫害等の駆除及び防除を行います。



計画的な森林整備により、持続可能で収益性の高い森林経営を促進します

6 恵み豊かな水産を活かすまち

●栽培漁業等推進事業／232万円

つくり育てる漁業を推進するため、海面及び内水面の漁業者が行う種苗放流に支援します。また、小学校との連携による児童の放流体験を通して、漁業を身近に感じてもらうことで、河川環境の保全意識の啓発を図ります。

●いか釣り漁業支援事業／1,000万円

「いかのまち酒田」を全国に発信するため、水産から商工、観光までの幅広い関係者からなる「いかのまち酒田戦略会議」によって、いか釣り船団出航式や酒田フェアを開催するとともに、いか釣り漁船への支援を行います。



いか釣り船団出航式を開催し、大漁と操業の安全を祈願します

3

ファンが多く、移住者・定住者・観光客が増加する酒田 ~交流拡大~

1 移住者・定住者が増えるまち

●酒田移住交流推進事業／1,977万円

引き続き移住相談員による本市への移住検討者へのきめ細かい相談対応および情報提供を行うほか、各種支援策や移住体験ツアーの実施、移住を切り口としたPRなど総合的な施策を展開します。またUIJターン人材バンクの運営により、専任のコーディネーターがUIJターン就職のサポートを行います。

●生涯活躍のまち構想推進事業／1,618万円

消防本署跡地（千石町）において、民間のアイデアや資金を活用する仕組みにより、地域交流拠点を含む移住者向け住宅を整備運営する事業予定者を選定し、生活クラブ生協と連携して構想の実現に取り組みます。



移住検討者の利用が好調な「移住お試し住宅」

2 「おもてなし」があふれ、交流でうるおうまち

●国際交流推進事業／656万円

令和2年7月に友好都市の中華人民共和国唐山市との盟約締結が30周年を迎えたことから、唐山市で開催される記念行事などに本市代表団を派遣し、さらに交流を深めます。また、ロシア連邦サンクトペテルブルク市の第83番学校と県立酒田光陵高等学校、第583番学校と酒田南高等学校がそれぞれオンラインで交流し、相互理解と国際感覚豊かな人材の育成を図ります。

●青少年交流推進事業／810万円

他地域の小学生との交流を通じて、友情を深め、互いの地域の自然・歴史・文化などにふれあい、学ぶことで、相互理解や酒田への誇りを育みます。

●観光戦略・インバウンド推進事業／1億2,040万円

酒田観光戦略推進協議会に、DMO※・地域商社※機能を加えて体制強化を図るとともに、新しい生活様式に対応した酒田まつりや酒田花火ショーなど、イベントの充実に努めます。

※DMO（Destination Management Organization の略）：観光施設等、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域づくりを行う法人のこと。

※地域商社：地域の優れた産品・サービスの販路を新たに開拓することで、従来以上の収益を引き出し、そこで得られた知見や収益を生産者に還元していく組織をいう。

●観光物産施設改修事業（旧割烹小幡改修）／3,082万円

日和山公園周辺エリアを本市の新たな観光拠点とするため、日和山公園に隣接している旧割烹小幡を改修し、飲食スペースや休憩できるスペースを設置することで、市民や観光客が気楽に立ち寄れる施設を整備します。

●ふるさと納税推進事業／15億6,303万円

ふるさと納税を推進することにより市の財源確保と地域経済の活性化を図り、あわせて市の特産物のPRと本市の知名度向上を目指します。



ロシア連邦サンクトペテルブルク第83番学校と県立酒田光陵高等学校との間で教育分野の連携協定を締結しました（令和3年2月）



日和山公園周辺エリアの新たな観光拠点となる旧割烹小幡

3 「港」発の交流で賑わうまち

●客船誘致事業／934万円 客船受入事業／169万円

国内外のクルーズ船寄港の再開に向けて、船社等へのプロモーション活動を行います。寄港時には、船舶や港湾の新型コロナウイルス感染予防対策ガイドラインに基づく対策に取り組みつつ、酒田港に寄港するクルーズ船の歓迎イベントや、観光案内所、特産品PR販売ブースの設置などを行います。

●庄内空港振興事業／445万円

令和3年10月に開港30周年を迎えることから、庄内空港利用振興協議会を中心に、航空事業者などと連携して利用促進に努めます。



平成3年10月の開港から30周年を迎える庄内空港

1 誰もがいきいきと暮らしやすいまち

●意思疎通支援事業／181万円

聴覚障がい者などが医療機関や事務所などに行く場合に、手話奉仕員または要約筆記奉仕員を派遣し、意思疎通を支援します。また、手話教室を開催し、手話奉仕員の育成と聴覚障がいに関する理解を高めます。

●障がい児ほっとふくしサービス事業／311万円

障がいのある児童が福祉サービスを利用しながら、成長の過程で自立や社会参加する力を身につけ、将来的に地域で安心して自立した生活を送ることができるよう、各種福祉サービスの利用を促進するために、その利用料の一部または全部を助成する障がい児ほっとふくし券(1人あたり18,000円/年)を交付します。

●障がい者ほっとふくしサービス事業／1,154万円

障がい者が快適で安全な生活と社会参加を図ることを目的に、重度心身障がい者が本市指定の福祉サービスなどを利用する際、その利用料の一部または全部を助成する、障がい者ほっとふくし券(1人あたり12,000円/年)を交付します。



あらゆる人が利用しやすいまちづくりの一環として、「バリアフリーマップ」作成のために行った街歩き調査



一人ひとりが多様な人のことを思いやる「心のバリアフリー」登録店のロゴマーク

2 結婚・妊娠・出産・子育ての希望がかなうまち

●結婚推進支援事業／1,052万円

酒田市結婚サポートセンターによる相談対応や出会いの場の創出に加えて、結婚して新生活をスタートする夫婦の住居費用や引っ越し費用の一部を補助します。(所得制限等条件あり)

●特定不妊治療助成事業／2,157万円

特定不妊治療を受けるご夫婦に対し、引き続き県内トップクラスの助成内容で支援します。

●妊娠・出産・子育て包括支援(ネウボラ)事業／1,044万円

妊娠期から出産、子育て期までを包括的にサポートするため、子育て世代包括支援センター「ぎゅっと」を関係機関と連携しながら運営し、産前産後サポートや産後ケアなど支援体制の充実を通して、安心して子どもを産み育てられる環境を整備します。



各種相談、産前産後サポートなどを行う子育て世代包括支援センター「ぎゅっと」

3 健康でいつまでも活躍できるまち

●新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業 3,698万円

酒田地区医師会十全堂及び地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構の協力により、市が設ける施設での集団接種と医療機関での個別接種を組み合わせ、市民が安心して円滑にワクチン接種を受けられる体制を構築します。

●各種予防接種事業 2億1,831万円

新型コロナウイルス感染症との同時流行を防ぐため、65歳以上の方に加え、妊婦、生後6か月から18歳までの方、19歳から60歳未満で基礎疾患を有する方も対象としたインフルエンザワクチン接種への助成を、継続して行います。

1 住民と行政の協働による地域運営ができるまち

●コミュニティ振興事業／1億6,597万円

各コミュニティ振興会に対し、それぞれの地域課題解決を図るため、自主的に使える財源として交付金を交付します。また、地域の将来を住民自らが考える「地域計画（ビジョン）」の策定を広く働きかけるとともに、市街地を除く地域において、地域計画を実行する段階で新たに集落支援員の配置を選べる制度を導入します。

●中山間地域活力向上事業／416万円

株式会社良品計画の酒田プロジェクトと連携・協働し、地域活性化や課題解決を図るため、買い物支援としての軽トラックによる移動販売や、日向里かふえの継続や自立に向けた調査事業に取り組みます。



住んでいる地域のありたい姿を描く、地域計画策定のワークショップ



中山間地域を巡る、無印良品の移動販売車

2 美しい景観と環境を「全員参加」でつくるまち

●ごみ減量化推進事業／2,573万円

出前講座や研修会の開催、ごみ出し情報の発行など様々な機会を捉えてごみの減量について啓発を行うとともに、紙類のリサイクル推進のため、紙箱や封筒などを分別するための雑がみ回収袋を作成して小学生のいる世帯へ配布するなど、市民の環境意識の向上に努めます。

●風力発電施設管理事業（風力発電事業特別会計）／8,768万円

地球温暖化防止対策を推進するため、令和3年4月から酒田市十里塚風力発電所の運転を開始します。



リサイクルできる紙類を入れる「雑がみ回収袋」（イメージ）

3 地域との連携でつくる安全・安心なまち

●防災対策強化事業／1億678万円

避難所となる小中学校への食料等の備蓄、緊急情報伝達体制の強化として防災ラジオの頒布や総合支所地域への防災ラジオ導入のための酒田FM放送の中継局整備を行います。さらに、女性を対象とした防災講座及び避難所運営を検証するワークショップを開催し、地域の共助体制強化と女性の視点を取り入れた避難所運営体制を構築します。

●消防庁舎及び総合防災センター整備事業／1億2,215万円

令和3年12月（予定）の新消防本部及び本署の竣工に向け、敷地の整備を進めます。

●危険ブロック塀等撤去支援事業／240万円

地震等による崩壊の危険性があるブロック塀等の撤去を支援することで、安全を確保するとともに事故の未然防止を図ります。

●飛鳥津波等避難対策事業／2,510万円

飛鳥地区ポケットパーク整備事業／4,856万円

飛鳥における避難対策を強化するため、安全管理上、特に改修を必要とする5つの避難路を整備するとともに、住宅火災の延焼防止のため、寄附を受けた空き家を解体撤去し、跡地をポケットパークとして整備します。



酒田地区広域行政組合の新消防庁舎及び本署の完成予想図

4 「暮らしの足」が維持されるまち

- 乗合バス運行事業／1億2,566万円
デマンドタクシー運行事業／2,445万円

「暮らしの足」として必要不可欠な本市の乗合バスやデマンドタクシーなどの地域公共交通は、利便性の向上と地域の実情に合った移動手段として維持するため、令和4年度に路線を改編します。令和3年度は、路線改編の円滑な実施に向けて、広報への掲載や住民説明会の実施などにより周知を徹底します。

- 定期船運航事業（定期航路事業特別会計）／1億3,272万円

定期船「とびしま」の乗船予約システムの運用及びキャッシュレス決済の導入により、利用者の利便性向上を図ります。

- 誘客宣伝・利用促進事業（定期航路事業特別会計）／420万円

利用拡大のための子ども無料キャンペーンや野鳥観察ツアー、情報誌やテレビなどでの広告によるPRを継続し、飛島への観光誘客を促進します。



日本遺産のPRラッピングが施されたるんるんバス



酒田と飛島の間を結ぶ定期船とびしま

5 自然環境、歴史、文化、産業で多様性を 広げるまち（八幡、松山、平田地域と飛島）

- 白旗史朗作品によるジオパーク発信事業／118万円

鳥海山・飛島ジオパークの魅力をもっとPRするため、山岳写真家白旗史朗氏が撮影した鳥海山の写真をパネル化し、市内外の各所で展示します。

- 松山にぎわい創出事業／56万円

まつやま大手門くらふとフェアや地域の祭りやタイアップした賑わい創出イベントなどを通して、交流人口の拡大と地域活性化を図ります。

- 松山の宝推進事業／161万円

松山歴史公園内での百年前のピアノを紹介するイベントの実施など、城下町としての歴史資産「松山の宝」を活用し、地域外からの誘客とにぎわい創出を図ります。

- 里山ひらた地域資源再発見事業／153万円

市内小学生を対象とした自然体験教室、平田地域ゆかりの芸術家に関連するイベントを実施し、交流人口、関係人口の拡大を図ります。

- 飛島海の拠点整備事業／1億410万円

とびしまマリンプラザに食堂・カフェ及び小規模店舗機能を整備し、飛島の観光産業の振興を図るとともに飛島での日常生活の利便性の向上を図ります。

- 飛島漁業担い手確保環境整備事業／3,000万円

漁港施設の機能維持や将来の飛島漁業の担い手の安全操業のため、漁港に放置された漁船の処理を実施します。



鳥海山の雄大な景色を収めた白旗史朗氏の写真展



市内外から約9,000人の集客がある「まつやま大手門くらふとフェア」



平田地域の資源である里山を活かした自然体験教室（野外炊飯活動）

1 ひと・もの・情報が集い、魅力と賑わいを創出するまち

●酒田コミュニケーションポート（仮称）整備事業／7億1,181万円

令和2年11月の酒田駅前交流拠点施設ミライニの先行オープンに続き、令和4年のグランドオープンに向けて、駐車場、広場、バスベイなどを整備するとともに、中央図書館の移転を行います。市民の多様な活動及び学習の場を創出することにより、交流促進及び中心市街地の活性化を図ります。



ミライニでは、高校生による賑わい創出活動が行われています

●駅周辺整備事業／14億8,868万円

酒田駅前地区第一種市街地再開発事業の個人施行者光の湊株式会社に対し補助金を交付し、令和4年のグランドオープンを目指します。

●酒田商業高校跡地整備事業／6億313万円

酒田商業高校跡地について、民間事業者から公共空間を活用してもらうという視点から公民連携により中心市街地を活性化する取り組みに向け、既存校舎などの解体を行うとともに、事業者の募集を行います。



新たな交流・賑わいエリアとして整備を計画している酒田商業高校跡地

2 交流の基盤となる高速交通ネットワークの実現に向けて一丸となって取り組んでいるまち

●日本海沿岸東北自動車道等建設促進庄内地区期成同盟会負担金／38万円

高速道路・地域高規格道路の早期完成に向けて、沿線市町村や関係団体と連携して取り組みます。

●鉄道高速化・利用促進事業／51万円

羽越本線と陸羽西線の高速化、利用促進に向けて、沿線市町村や関係団体と連携して取り組みます。

3 将来にわたり快適に利用できる生活インフラが整備されているまち

●側溝整備事業／2億5,090万円

老朽化した側溝を改修し、雨水排水の機能を回復させ、安全な通行を確保します。



整備する側溝にはすべて蓋を設置し、道路の幅員を有効に活用します

●橋りょう延命化事業／1億5,057万円

橋りょう長寿命化修繕計画に基づき、橋りょうの長寿命化（点検・修繕など）に取り組みます。

●公園施設長寿命化等整備事業／5,200万円

将来にわたり誰もが安全・安心に公園を利用できる環境を維持するため、計画的な更新・改修による施設の長寿命化および機能向上に取り組みます。令和3年度は九木原公園の遊具更新やトイレ改修などを行います。



計画的な橋りょうの点検・修繕を実施します